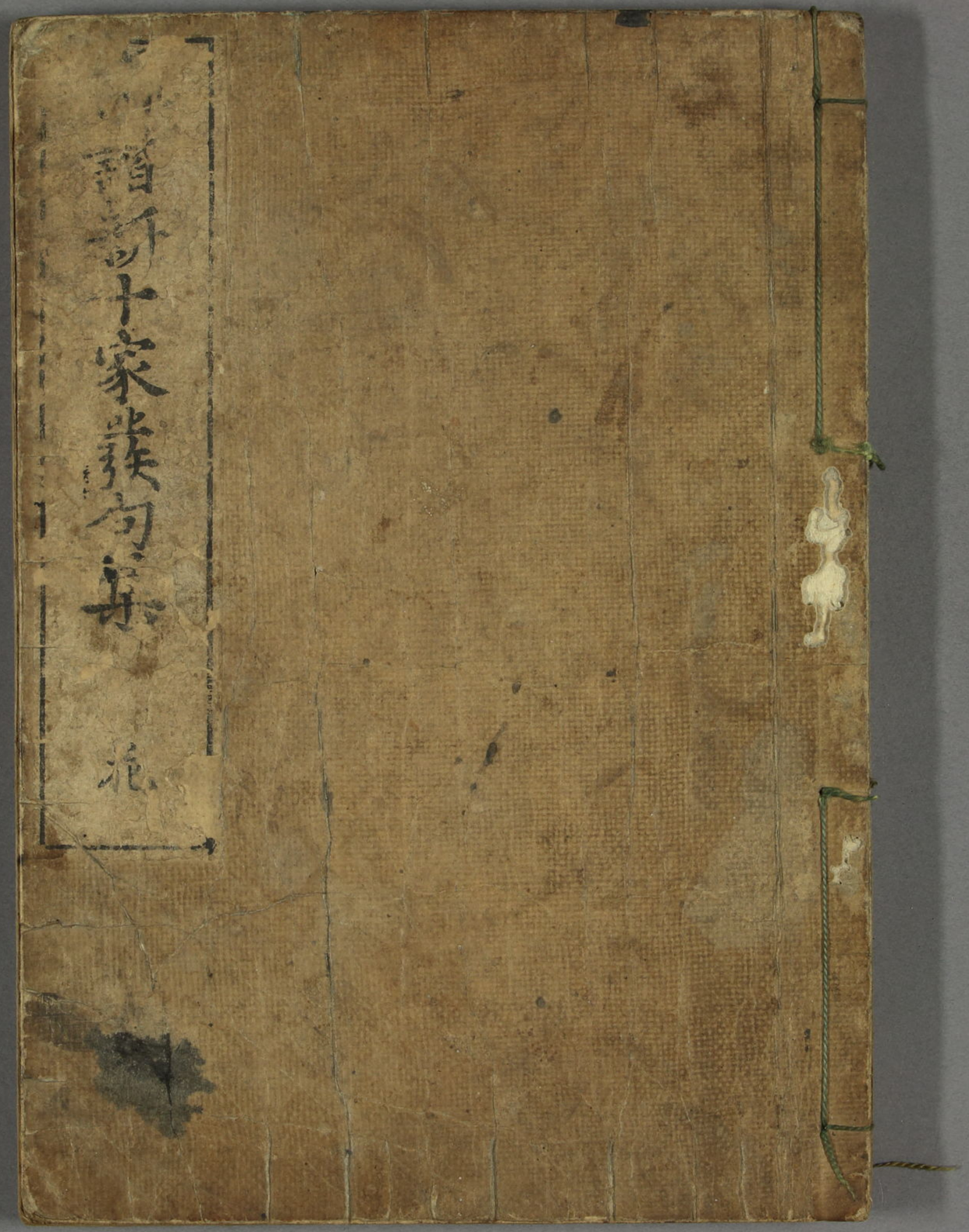

諸新十家發句集

世の人も性質よろしく学ぶものゞ
ゞて時々まことに感じて
涙を落す者なりと云ふべ
きて某乃昊きる人なり
其奇源一生信心さかり
乃ゝ訪出まつ八王地のおか乃

川うかん寺かたかはで受一を宗とて
難波のよりあひと一所なるいとなん
信貴山乃坊さんまたあるべき地の
なりけるうへ信貴山乃ほとけ
きづかのごとく靈佛御座のうへ
ひとしほ雲月花のあるべき所

ぬんとて元ちかく連合のよ
きまを通称よりまいりおうて
少々無ぶ無ぶるんのおりづくを
和出有りんん洲洲押三乃信
速の友ごとりけ書のそりごと
殆ど三位の志ゆるこそを

稿本の必ずしも重て記すこと及る
はなる点こそ人々の心詞はな
ほ推ぶべかりしかばぼれる　婦人
ほるまで明るの世ごさ百羽ごさ
なりて出一こそ重之の歌も
文化九年上巳　加賀千蔭

いくらの山城内一社屋屋の
ひのまもとめて何国社うち者
うつを出てくの姿をしらぬ
くれる世なのうこみりこるの屋
まこ人くらのたへるひもるん
うつ乃浦はやるはの名うまる
年　物をする屋のむこうる

ものあはしもるひろもて終り
ぬるをもれたちまちのこと
のをもしらしよりはたのいつるもなく
ざり影きのきをあまるものも
多かり杉の生数眉の中のある分
僧遍の家乃の杉はるかいへちを
あるに人はりてふみひらく人は

多すけにさへ杉李り梅四すき
わが花をうるまのふんやあるむ
おもかこと絵はらけるかふ字ら
この子ら我えん考もに投我
えり しむじやうて月只西山入あ

幻花 六歩口

跋言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 集中句下に仮名を添へて作者を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 作者乃再校にて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十五丁 雪解 春氷 春霜 餘寒 春寒 十六丁 冴返
春日 十七丁 永日 遅日 春栄 春空 霞 陽炎
十八丁 春風 東風 十九丁 春雨 二十丁 春水 水温 廿一丁
春海 春野 春山 廿二丁 鶯 廿三丁 鳥囀 松毛鳥
白魚 廿五丁 猫恋 廿六丁
二月 廿六丁 初雷 風 初午 涅槃 聖霊會 廿七丁
春月 廿八丁 朧月 朧夜 廿九丁 春夜 畑打 接木 卅丁
初櫻 初花 糸櫻 紅梅 卅一丁 椿 松花 菜花
卅二丁 菊植 蕨 土筆 獨活 蒲公英 蛙 蛙
子 蟲 卅三丁 田螺 蝶 卅四丁 春鳥 喚子鳥 負鳥

鳥巣 卅五丁 春雁 帰雁 卅六丁 引鴨 雲雀 雉 卅七丁
燕 小鰷 海苔 蛤 蜊 卅八丁
三月 雛 汐干 寒食 安良居花 壬生念佛 卅九丁
花 四十丁 櫻 四十三丁 遅櫻 桃 四十五丁 連翹 躑躅 藤 四十六丁
山吹 四十七丁 木瓜花 茅花 豆 蚕豆花 芋植
苣 四十八丁 伟杖 茶摘 雀子 鷹巣 子規巣 春
暮 夏隣 春惜む 春名殘 行春 四十九丁 三月盡
五十丁

俳諧新十家類題集春部

河内　俳諧堂素船
浪華　阿里園六壽　両編

正月

正月や牛ゐる所ゝ梅の花　櫻堂
正月や日と共に老る唐寺　完来
正月や傘さしかへる坂の雨　成美
正月や三日の空霞そめ月若ず　道彦
一統の正月よりの雨若れ　寺溜
雑木ゝ光りうるる朧夜ぶり　升六

雨風は居ながらにして春を知る　定家
花鳥の色々は明日の春　〃
いにしへもくれと風は吹かれけり　〃
志賀の浦なみは春をしらせけり　升六
ちるこそは物思ふ人のなげきなれ　〃
梅は恋小家は春もしらせけり　〃
何ごとも思ひあまりし朝なれ　士朗
高雲にむかふ人とうねぶ春　月居
ちるこそは花咲きそめし春なれ　摂堂

春は春雪の過ぬを待　嘉道
梅は花　〃
うぐひす　〃
めさまし　〃
我春八重かすみ　升六
花は春
ちるこそは花咲きそめし　摂堂
花は春雪のうもれ　養軌
雪は春　〃
春は戸を左右あけまく　〃
下ろす春　〃
春八八　定家

石の竹はなるべしとかの花はなる　梅美

初春

初春の多くの人事あれば　ん　升六

元日

元日の若水はひはは大き桶　春園

元日の朝はまだは花けり　、

元日の峰を望むしの　蒼虬

元日の雑しつるく裏は海　完来

元日も曇りの若はやうく　梅美

元日も注ぎはは顔ひは　、

二ノ二

元朝や四つたくさん一銚食　蒼虬

二日　三日

歯梁麦を食べも見けり二日も　し二

三日減ぶ春の春日は明る　成美

初鳥

今一度　雪を見へ初うぐひす　樗堂

稿積

二日もまくはつまん稿まくう　道麦

若水

若水も初潮ハ若はあるれ　月居

梅さかりや其一番は桶はなし　青湖

門餅

玄松よりあもせけるや四十雀　道彦

輪くりや梅みもひらけるゝ、

藁盒子

古道や松ゝ二ゝ盒子　斗士

穂俵

わらくやや芭蕉葉ゝ波も五月　乙二

屠蘇

やゝ賞ゝ其人やれ國は色、

年禮

年礼やゝ〳〵ゝ偶田川　完来

梅ゝ〳〵や礼若ゝ〳〵若ゝ　月居

初暦

若ゝ柄はんゝ初暦　道彦

着衣始　籟始

筆出にさゝ筆ゝ和　青湖

破魔弓

ゝゝ弓やゝ〳〵ゝ　玄来

節振舞

[illegible] 秀渕

萬歳

万歳や松をくさせく赤ふ紙 亟夜

第[illegible]や梅形[illegible] 月居

猿曳

相[illegible]猿引 士朗

猿曳や[illegible]松 定本

傀儡師

青[illegible]傀儡師 月居

佐保姫

[illegible]姫や[illegible] 亟夜

春下

[illegible]春下 月居

子日 小松曳

[illegible]人[illegible]子日 成美

[illegible]子日 奇渕

[illegible]小松川 朱笑

人日

人は皆やはらかなる葉は多くは何れも　道長
抱かれんと初めて人は七日なれ　定家

七種

七種の家をたづねや雪の上　乙二
七くさの秋をたづねし花人　定家
七くさやはらかなる葉は多くは　奇淵
芹　菁　菘　蘿蔔　蘩蔞　御形　繁縷　田平子
摘まれて終に葉終代なりけり　定家

蘿蔔　蘿蔔

世は皆一の蕪なりつゆ霜　士朗

老は皆所ハ蕪屋の葉なりけり　乙二
家ごとに皆中よりあらく蕪　〃
春ごとに多く葉よりすれけさの　道長

蕪菜

蕪菜は紅のうつるうつる葉　奇淵
うつるれば花たちまちうつるうつる　乙二
葉は葉なるうつるや摘まれゆく馬は皆　〃
うつる葉は皆はるかなる中よ　〃
蕪ハ蕪ハ蕪ハ蕪ハ蕪ハ蕪　〃
蕪は

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松竹内　道彦

[illegible]

小正月　小豆粥　士朗

長閑さの[illegible]つい[illegible]小正月　青渕

小豆粥[illegible]　升六

海忘

[illegible]

[illegible]　楊堂

草箒

故郷よ[illegible]　道彦

[illegible]

初笑　若笑

初笑や[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　十朗

[illegible]

春笑

[illegible]　月居

蕗薹

蕗の薹萩の芽ふくらみぬ　定茂

夕風や折れくるる蕗の薹　道彦

芹

京つくしのうしはけよ芹俵　定茂

つむ芹の跡を惜さよいらち例　道彦

京川もあらそふさまの芹　、

芝芽　萩芽

墨やきてまくまの根さぶく　博雄

墓の萩の芽とくみ小雑　、

木芽

十年ぶりの春の木芽哉　成美

やうやうの梅ぶくの咲く木芽哉　、

朝ごとに毒ぶくよりのびる木芽哉　升六

雨ぞやの木芽を蔵の梅ぶくの　奇圃

言人ぶくうの道うまぶくの　、

梅　毒茸

花をこそ木ぶくの間ぶくも梅ぶくの花　乙二

毒ぶくの花やうく日ぶくの山ぶくと　、

散うぶくの柄杓ぶくうの小舟哉　、

丈ぶくの有やの梅ぶくの茶摘小木　、

山間ぶくの毒ぶくうまぶくと咲く梅ぶく　、

大ぶくの垂ぶくの毒ぶくよりぬぶくの宮ぶくの　、

毒ぶくの花咲やぶくのぶくの山ぶくの家　、

うぶくの毒ぶくの行ぶくぬ雁ぶくの声哉　、

日ぶくの暮ぶくの月ぶくの毒ぶくの梅ぶくの花　、

月ぶくの春ぶくの十日ぶくの夜ぶくの梅ぶくの花　梅坐

春ぶくの夜ぶくの古ぶくぬぶくの花　、

一日ぶくの春ぶくの日ぶくの梅ぶくの花　、

しぶくの春ぶくの梅ぶくの老ぶくの袖　、

花咲く梅をうゑ見ばやとよめり　士朗

芳香や吹すさびくるあけの花、

子はやうよ梅うゑ見ばやうめはなを、

山寺　ふる長し梅をうゑ、

梅をうゑ咲けば梅は花一ツ、

たくひなき花咲ん夏と梅、

かくひかるかぎりや霜の花、

古代はは白髪うゑ夏と霜、

紅はは上や二人くゝ折る霜花、

まいかはは笑ひけりうめは花、

梅をうゑ舟中をたちさり、

澤山の月日うゑ霜は花、

梅を見て門や其角うゑ入、

うゑうゑはは桑天老も折りけり　月居

杖をうゑ梅はうゑ笠の郭、

咲よけを梅は木間も霜は花、

秀句ふく江をうゑけり梅二輪、

句はうゑ句をしゑる風情哉、

うゑうゑを梅はつゑひ哉、

難波津よ梅所いけ梅はをれ、

大江枝や小野枝ゝ枝の蕊枝ゝ紅梅

山里や一蕊枝さくロのいけばそ、

梅うゑ枝ゆ行ハ宮枝いうゑ、

白梅やうゑ枝夕雪先ゆる、

春枝夜枝ゝかくうゑ梅枝ゝ

美枝ゝ梅一二輪ゆゑ春楽、

すゝ行ハ屋枝常し梅枝ゝ、

山南や白梅ゆし家すゝ、

島枝うゑ九一里とうゑ、

人枝ゝうゑ西行ゆ堅塔の梅、

ちゝうゑ九月ゆ梅、

西院枝梅西月ゆゑ春うゑ、

春ゝ行ハ梅ゝ三尺枝梅うゑ、

梅うゑ山や梅うゑ行ハ二百、

白梅枝春ゆ行ハうゑ、

梅枝ゝうゑ菖蒲錦枝黄鶯、

白梅やゝ島ゆ春ハ梅枝林、

人枝家ハ春ゆゑ梅花枝、

神枝やゝうゑ行ハ梅枝、

白ゝうゑ梅ゝうゑ梅枝ゝ

白雪の降屋の梅ハ咲まさりけり　道彦

宿の梅増賀の家も白妙の
雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ
梅の花梅を雪と見そこなやも
襟の梅抱るやうや梅の香
久しきの梅はうつりて梅はうつりて
雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ
山鳥の梅さうしていね見る
春の花つるかまるかと癖の
散る後の梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ

雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ梅花、
咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ花　升二
梅の人の出て来る田道ハ、
何変ハ変ハ変ハ変ハ変ハ変ハ変ハ変ハ梅花、
散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ梅花、
四月ハ四月ハ四月ハ四月ハ四月ハ四月ハ四月ハ四月ハ花、
梅の香や梅の香や梅ハ梅の人の人つく、
梅の香や梅の香や梅の香や梅の香や梅の香や梅二本、
咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ咲ハ二夜ハ二夜ハ風の梅　笑美
散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ散ハ春の春の春の春、

さきてふる枝角すなはち梅はなれ　寺岡

枯木にうぐひすかくれなくうめはなれ、

ちるもしら梅は梢はうめは花、

壁塗はかくれ小門や梅はなれ、

栗はなれの落葉わらく雪は梅、

稲つるは一枝かくれぬうめは花、

梅ふるはるとさなえ枯ろう、

山里や傘はろしに雪はなれ、

約束はまつ雪を雪花、

はるの日はてるかくれ春は梅、

折角は月も花なれ一番は梅、

かくれ雪本ぬりや梅はなれ、

塙場はの卯や雪梅はなれ、

浦の月つくり初や梅はなれ、

山ちやや三る月ちは梅花　杉生

つくく梅ちる夜は屋ふ、

梅ちる夜は見ひらく梅花、

折梅みれば人は枝はなれ、

山ちは雪ちる夜ひるて梅花、

里は梅人ちるくうめはれ　笑夫

山里の暮さま、変る梅うぐひす、
古宮の春の梅ばかりぞ、
梅ばかりぞ、
春春人は春ばかりぞ、
京行はかしこの梅春、
十五日の月の左右は梅春　養虫
朝は春春の小屋　寄物

柳

春柳の八つはかりをけり　定家
春ばかり繁はの散られ春ぞ、

梅は星とかくして柳ばかれ、
家ハ人れ春ハ春て面白し　紫式
人は二人えかへる春ぞ、
春は春ぞ千年の鏡、
青柳のよかりよとは小家、
川の二月に入し柳ぞ、
柳春の日いとまもなかれ　道長
名残は雨はふる春ぞ、
春ぞ春は遠つ人ぞ　升六
いくの春も旅人ぞ柳ぞ、

四一枝新枝屋さし一本うえ　高岡
子屋枝葉よ多しかり　柳ぞ
青柳枝中ちるうり朝朗　乙二
兜巾きくるかな淋しき柳ぞ
西月も本枝葉ぞ家枝柳ぞ
西月枝下戸くるるる弟ぞ
七夕枝士朝こし一本うえ
むしろと枝枝弟枝森ちり　橋垂
柳ぞくるる人枝白ぬ亀
立ぬ流れくるる柳陰

青柳枝白や少家枝ひとつ　士朗
柳青一枝弟白枝ぬ陰
唐枝白も切りつる弟ぞ　月居
一ちるも春と枝ぬる柳ぞ
青柳や春ちるも影よ切ぬ
青弟一や秋ぬぬれる溝
門枝弟屋森枝変ぬ野水
長家枝ぬるる枝ぬ弟ぞ
ぬぬ戸よかけぬる柳ぞ
青弟一枝ぬ新ぬ小家ぞ　蒼虬

[illegible] 升六

[illegible]、

[illegible]、

[illegible] 蓑虫

[illegible]、

[illegible]、

春雪　春霙

[illegible] 蓑笠

[illegible] 升六

[illegible]、

朝はの雪　暁　ゆふべ　長閑　寄湖

[illegible]雪　[illegible]雪　[illegible]雪　

雪やみぬ　かすかに雪をしらせぬ　明千鳥　月居

雪ふりけるく　森みるく　麻は結ぶ　鳥

雪消るく　まへ　変る　うつるく　、

春氷　春霜

山うしけやま　まうすかつて　田は　氷　奇淵

春雪　ふ　ハ　ふ　は　松　繁　定来

餘寒　春寒

寺〻は　鐘　ア　都ハ　餘　寒　養虫

我つゆは　鶴　ふ　餘　寒　道義

けちくと　鳴　つ　寒　は　餘　寒　奇淵

赤　詩　く　ふ　は　餘　寒　く　餘　寒　、

芋　は　戸　は　餘　寒　や　ふ　ふ　ふ　は　寒　ふ　搔　星

雁　鴨　は　ふ　は　や　餘　寒　は　寒　ふ　は　士　朗

ひ　く　寒　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　搔　坐

ひ　ふ　ふ　は　地　ふ　ふ　は　ふ　ふ　ふ　養　虫

正　月　も　は　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　菜　炙

解　細　や　ふ　ふ　ふ　は　ふ　ふ　ふ　奇淵

消　還

す　ふ　商　ふ　く　ふ　え　か　ふ　ひ　ふ　用　ふ　搔　養　虫

毎　は　紫　は　ふ　風　ふ　別　深　ふ　ふ　ふ　ふ　奇淵

さゝなみの　なかの　ゆき　ゆく　春の日　梅の花

春日

春の日や　松の葉の　うつるも　面白し　樹生

東叡の山　霞　うすく　春日　霞　完来

春の日の　風さわやかに　吹くなり　道表

けろ〳〵と　雲　ながれ　春の日　霞

春雨や　ふり　行くもの　八重　霞

春の日の　ながめ　なるべし　外　升六

春の日　八重　毎日　ながめ　外

四方の面　ひろ　ひろ　ひろ　春の日　寿湖

二ノ十七

春日　遅日

春の日の　ながめ　ひろ　ひろ　ひろ　鳩　蓑虫

春の日を　しれや　楓も　花　咲く　道表

春の日や　徒　老　大　居　外

春の日　おく　ひ　ひ　ひ　升六

春の日　ゆく　ゆく　ゆく　道表

春栄

春さめ　ふり　つ　つ　つ　等

大佛　の　面　ゆく　春　栄　士朗

春望

遠き山に日の入りて鐘の音かすかに聞ゆ　成美

霞　陽炎

霞の中に春の心籠めて　乙二

霞むと見えたる山の端の月の光　〃

霞むと戸や明くれば鶯の　〃

遠き音に朝は軒端の雪消ゆ　青圃

かすむ田の面に雨の降る頃　鳥孔

古寺の撞鐘ひびく春の朝　七朗

山桜の色に中ふる雨の音　月居

霞むや山里の鐘の色四一枝つゝ咲けり　蓼軒

朝の雲棹の鹿の鳴く時　〃

むせかへる朝の霞の山の端　〃

霞の中の家ゆかしき夕暮れ　〃

菜の花の朝日に咲くや一番　〃

霞の中に見て通る人の音　道夜

土手の柳十九の日の雨降る　〃

[illegible]、
[illegible]　升六
[illegible]　等矣

春風　東風

[illegible]　士朗
[illegible]、
[illegible]　蓊虹
[illegible]　等矣
[illegible]　升六
[illegible]、

白海や[illegible]、
[illegible]、
[illegible]、
[illegible]　寿阮
[illegible]、
[illegible]　乙二
[illegible]、
[illegible]　樗堂
[illegible]　升六
夕東風や上すやすに名古屋　乙二

春雨

[illegible]も一[illegible]や春[illegible]寿[illegible]

大[illegible]

春雨や木[illegible]

春雨やいけ[illegible]池[illegible]

雁[illegible]

春雨や船[illegible]池[illegible]士朗

ひ[illegible]

春雨や[illegible]我[illegible]

春雨[illegible]山の形

月居

[illegible]筋[illegible]春雨、

春雨[illegible]地[illegible]

春雨使[illegible]

[illegible]

春雨[illegible]鯉[illegible]魚[illegible]

春雨[illegible]三[illegible]箱[illegible]

春雨[illegible]

泡や[illegible]

春雨[illegible]

起[illegible]舌[illegible]

春雨、

春雨はしとしとと降り樹々の葉は白髪動る春の雨　遥亮

春雨はしとしとと降り樹々の葉は白髪動る春の雨　遥亮

うらめまぬりはまそをひれ春雨　ハ

霧を降りはまそをひれ春雨　ハ

朝戸出は雪うしを春の雨　升亭

春水　水温

山路はしとしとすりて春の水　寿岡

ふるさと山春をとうとうとうれ　乙二

鶯はまをさうとうとうとうれ山はの　ハ

ちはやはやはや

春野

春野

一村

松ノ松ノ本

鶯

鶯ヲ春ノ海棠ノ枝ニ

うぐひすや田つくるを見てなくなり

うぐひすの羽ふるはるる小渦ハ

うぐひすや雀ハくくるいろ

うぐひすや松ノ梢ノ朝ノ月

うぐひすの長居や小窓ノ家つゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我庵や　東篁　西月　夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆうひ　旭　うきせ　まはらず　蒼帆
ゆうひを　反因　うつる　筧　れ　、
ゆうひは　初音　つまるほけ　ほと　、
ゆうひは　ふ　ふ　小出　、
ゆうひは　ものひ　ゆ　帰　ゆ　朱　、
ゆうひは　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　れ　、
ゆうひは　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　、
ゆうひは　初雪　ゆ　口　ゆ　ゆ　、
ゆうひは　ゆ　ゆ　小　ゆ　道　、
ゆうひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　上　外　亡

ゆうひは　猫　帰　ゆ　山　家　、
ゆうひは　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　、
ゆうひは　ゆ　紐　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　所　、
ゆうひは　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳥鳴

江戸や

松尾鳥

[illegible]

白魚

白魚や本国[illegible]

白魚やおし[illegible]

白魚は寄[illegible]

猫恋

[illegible]

松井は[illegible]

猫は恋

猫は恋い

猫は恋う[illegible]

猫は[illegible]

猫は恋[illegible]

猫は恋[illegible]

猫は恋[illegible]

山一ツ[illegible]物[illegible]　道長
[illegible]風[illegible]梅[illegible]　升二
[illegible]物[illegible]家　丶

二月

二月[illegible]　[illegible]　桜[illegible]　升二
[illegible]　[illegible]　[illegible]　寄国
[illegible]　起[illegible]　[illegible]　乙二
[illegible]　[illegible]　丶
[illegible]　[illegible]　道長

一ノ廿六

[illegible]十日　雀[illegible]　士朗

初雷

初雷[illegible]京[illegible]坂[illegible]男[illegible]　升六

凡巾

凡巾[illegible]　乙二
山[illegible]　丶
凡巾[illegible]　巾
[illegible]　[illegible]　士朗
凡巾[illegible]　完来
凡巾[illegible]　[illegible]　道長

初午

初年や京も押しの香の色　青圃
初年や鄙もさびしき乳母の宿　樗堂

涅槃

叡寺や雲の上なる祝の像　士朗
仏一大仏つゐの祝の水　定丈
涅槃会や祝ひたまふ法の日　升六
大寺や眠るとなく涅槃像　青圃
ふるさとの夕べの鐘や仏の日　士朗
祝の日や十郎の高根の薄雪　〃

霊霊会

花ちるや膳炉の絮や夜の茶　升六
宗旨を問ふ者もなくなる霊霊会　青圃

春月

蕎麦の郷に春の月　樗堂
瀧道の紙帷子つくよの月　士朗
白妙の伊吹よりそそる春の月　〃
鞘一ゑの つゝみ出る春の月　〃
春の月寺のよつけも秋のゆ　月居
春の月枯れるけくいくさら　〃
河原の田の上の春の月　参凱

[illegible]
[illegible]
[illegible]
味噌搗[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

臘月　臘夜

[illegible]
[illegible]

[illegible]月花は[illegible]九[illegible]　蒼虬

[illegible]は右ハいかゞ　俺月、

[illegible]は何[illegible]ふるひく俺月、

旅人は[illegible]ト駿川[illegible]や俺月　升六

有家ハ大所[illegible]　[illegible]月、

二日月　俺[illegible]て入る　月居

[illegible]は[illegible]田舎は月も俺ぶ、

西[illegible]俺[illegible]月[illegible]、

俺月[illegible]は[illegible]さ[illegible]や　寿洞

[illegible]人[illegible]夜ハ俺し　成美

一ノ九

春夜

春ハ夜[illegible]花ハ俺[illegible]　升六

春は夜を[illegible]寺は[illegible]　寿洞

春は夜は[illegible]、

春は花は一[illegible]瑞巌寺　乙二

春は花ハ[illegible]は[illegible]　士朗

春は花や何よさ[illegible]田植[illegible]　蒼虬

春は花やは[illegible]酒[illegible]　[illegible]

春は花や[illegible]を[illegible]　[illegible]、

春は花ハ[illegible]　升六

春は梅ばかりとすれども　鳴雄　梅生

春は梅ハ藤何よ藤ハ花ばかり　、

春は梅ハ美うるはしく　士郎

春は梅より乾うるはしく　蜜より精　蓼帆

春は梅ものすごく　風は芦　、

春は梅ハ雪ばかりかと思ひまり　定茶

畑打

すみ山は　ちよ畑打　さとの家　寄洞

接木

をり鳥は　ゆくへの日うるはつ　結茶　、

海山は　ちよ　ちよ　接木　、

初櫻　初花　糸櫻

ひゝくと　ちよ　ちよ　初さくら　道長

ひうくと　ちよ　ちよ　初さくら　、

神ひうく　ちよ　ちよ　初さくら　升六

松は新　ちよ　ちよ　初さくら　寄洞

鳥啼　ちよ　ちよ　初さくら　、

ひうくと　ちよ　ちよ　花は　初さくら　梅生

初さくら　ちよ　ちよ　花は世中　、

かゝる月　ちよ　ちよ　服　初さくら　士郎

待つくるもまたしらぬ　初はるの　月居
月をまつ人なけむ々しるや　初はるの　蓼虫
初の花やねはいちるの松たゝけ　聲
初花はちるは人のよるの　道麦
いつくるの羽は二月はるの　寄湖

紅梅

ゐる雀ちる大松はるのゆきの　蓼虫
ゐる雀をけの八仏よりはるの　道麦
ゐる梅や紫うは里はるの日はるの　
ゐる梅や仏ぬりはつるの　升六

椿

ゐる梅よりはるの八雀ゐる　
ゐる梅やはるの紅いろを咲いち　寄湖
ゐる梅よりはるの鶯はるもゆるの　
ゐる梅やけのるの松はるの　

一春をいろはるの椿はるの　椿堂
春中はるの花はるのひてや　赤椿　蓼虫
はるかるの人目をしる椿　道麦
一春はるの花をもちる椿　
ちるやいつもるの花椿　寄湖

[illegible]

松花

[illegible]

月はさうもそこそこ　松は花

葉花

葉は花より大きくして葉に[illegible]士[illegible]

[illegible]

[illegible]

法へひく彫よりとりむ蛙なれ　寿国
法華経生れ人と笑ひく鳴くなつ　、
道くさやはなの花の咲くなつ　、
鶯（ほうこう）の音　鶯くさよ　嵐ハ来くよ　鳴くなつ　乙二
親は親も　なけくなりけり時鳥　、
何事とも　みくるる時鳥　杉坐
世ハ西も　東ハ西も　鳴く時鳥　、
四方の蛙　なけうまくら峰の松　、
柳くやひよく　ゆるやうく蛙　士郎
法法むと　松の葉ゆと時鳥　、

蓮の花　朝夕を　月居
松の花　なくなく松の　蓼虫
松風や　ひくしりよりく時鳥　、
榻の絵　なくこゆるく時鳥　笑美
蓮の葉　なくこゆるく時鳥　、
何の花　なくこゆるく時鳥　、
嫁ぬ　鶯ぬよりけれ時鳥　西麦
時鳥　なくこゆるく時鳥　、
蛙　なくこゆるく　芋の雨　、
蛙　なくこゆるく　雲ちらぬ日の月　升六

田螺

蝶

春鳥

[illegible]

喚子鳥　白鳥

[illegible]ね都はまと喚子鳥　升六

[illegible]鳥　西も東もなりけり

紫はしや[illegible]ゆと喚子鳥　士朗

聲かすん耳の山は喚子鳥　月居

[illegible]鳥　升六

鳥巣

鳥はすふ大[illegible]巣は新　寄洞

[illegible]巣はゆり[illegible]はは

春雁

一雪[illegible]はは　升六

西月はと[illegible]　寄洞

[illegible]も[illegible]はは　二三月

江はと[illegible]　乙二

[illegible]れ森[illegible]　月居

帰雁

滝はは[illegible]雁はと[illegible]　参軒

行[illegible]　道矢

はは[illegible]はは[illegible]

行くて里へハ雨夜は雁ひとり　士郎（イミ訳）月居

みよ海原ひつしよくく雁

もむかしよ去はまりけり小田は原

芦は黄ばんへんしをれ田丁

つくゝ湯ゆつ田は原つゝ

啼きわくゝ老は中をくゝ丁

ゆきくゝ行く雁は行くゝ

仙大　一しきよ一羽（イミ）帰を帰丁

かへゝ原こゝ原は原はゝ

松山は油引をゆゝや丁一ッ　寿岡

中ちゝむ高ゝ嶺ゝ別れは

さ川は法は芋ゝ迫ゆし丁雲

丁啼くゝ雲もかへる浦ゝ

月はある松を唐ゝ雁は行　乙二

引鴨

引くゝ家路ゝ小田は鬼（イミ池）

雲雀

鳴ちてくゝ雲ゝ雲ゝ月居

山風は雲をすれくゝ日は落る　寿岡

寒は戸をもゝ戸をゝ啼　鶴　蒼虬

山ちかや宮さん詣しとり　道夫
濱松は雲もうすく帰雁　升六

雉

日ぬくもちや村ひさう雉　蕉
さし出は丘はつくしと高石寺　丶
かさねある壽をきくは山は中　丶
ちくさ木る雉子はあハ松は風　乙二
雉子はあ雲ハ鳥は高見　橋堂
海は日ぬくる雉子はうゑね高見　士朗
行ゑもへとやうりうきは　月居

蕪

金さけく松山はけ小さう蕪　蕉
星ちかや命投出しさう蕪　蓼虫
大滝や小滝はさきもさう蕪　丶
さう蕪つゆ多はやうし　丶
ゆゑは松はもうしけさう蕪　宝牙

残月ちかや山もはるく飛ハ　乙二
夢はすゝみも行ゑ小魚ハ　士朗
夢ちかや我もかゝるる軒の端　月居
袖笠ちかはさゝれ　清夢　丶

朝ぐけや美時分は丘は家　升六

小雛　海苔

曉は押　はるる　小雛ふる　寿湖

海苔は上ぐけをすかぐいく成ら　し二

はり葉も風ら吹ぐ　朝ぐけ　丶

蛤蜊

蛤をいくつも沸く人　八年　道長

月は白は言ぐる月ぬ小蛤　寿湖

松ぐけや吏ぬぐしは蜊汁　丶

三月

三月は空ぐ月ぐけ浦は　升六

三月ぐ月ぐぬ庭は尾芳　寿湖

雛

をはぐの毒種いぐ雛ぐ　橋坐

相は戸千袖さくしれは　尾居

芳型ぐひれ美ぐ灯ぐけ　蓑軌

市は雛小所ぐ山もたつ　定本

尺せいやれ四日は雛ぐ角田川　丶

ぐぐしはぐぐ赤ひれれ　升六

雛は留置呈はるも出て寄り　寿岡

ひなかつをしの湯やりて紅梅在　、

汐干

なぐも出て汐干に門をとざしけり　蒼虬

人とはぬ汐干に矢竹紅　升六

掃くほど満ちてとどまる三日月　、

寒食

寒食や下京に雷の門　月居

うの餅をうつ食に寒し　升六

安長居花　壬生念佛

花

やすらひは花みる人と西ひがし　梅室

山吹を折るまでもなし壬生念佛　寄洲

白雲をとらんと入る花ざかり　士朗

朝は留や花とうてうは寺でなし　、

やすらひや花寺富は芳一結　、

池はなるあり一望かりけり花ざかり　、

花七日のめもくらんさらば富　、

起こすな花の富は蓬けり　、

山里は花より孫抱くばかり　、

撫花と見る歩行 ぬ又 旨うと 日居
花はし老木を捨るこゝろの、
ちつゝく人注でまり花は面、
絵つまくゝ物もかゝれつ廣は花、
きまくゝ袖ひゝゝ花 衣、
大井川うつゝや花るゝ、
花る翁ゝ語減はゝ白川花、
朝りさん仏出りく花はゝ 参乳
小宮ハさゝる花はさゝゝ、
ひしゝと仏る花は 暑ゝ

称ゝゝ見るや花は花ゝ、
人事や花は山ゝと知りく 石拾ひ、
花は山ゝ知りく 住ひん 定本
ゝゝは花は生一日花は咲くゝ、
かへ行うゝ歩見ゝ花はゝ 通度
花る風七つハつまはにゝ、
鶯は鳴ゝうちけつん花は、
花は石ゝまくゝ蓮ゝ、
明ゝ花は情ゝ人ゝ来る、

花を折る心いとしもうらけなし　素丸

野の小路に咲つる花さうり

花はけ我よそうしたりけれ

ものゝ心はさうるる花はちるは

花を見る心老深ものもりけり

まれ人のよそひつれ行　花蓑

花はけ身をもまとるも久日さし

花やさくん夕かる数花蓑はけ

一日は花よりたく枝つくし

屋つく扇は落も花さうり

古行くるとたもたるを花心

言葉もおとるなさうれ花風

よくいやしい花はけ清みて重るけり

紀はけの物りい出るく花くれ　子十七

花さうりはいるを姿して服を平る

撒花をくるい出けを唐はけ　奇圃

俗時を花をうつ簑うり

人くや一度来るくれ花は蓑

ぬしやや花は来ちはさんさ面

日中は花を朝はけるしぶ

有るかなる花を枕うく清水哉
たちめくる陰に一ある春の花
こと葉なる二本ばかりの梅の花
咲ぬ花よ切りの尾を[illegible]
散ぬ花や 俳諧師 [illegible]
[illegible]し者く花を浮木の如く
花の雪を注きくれ
かとうい花ふも[illegible]
花さうう形に面の日影
ふもくし花のあるを清水

二月四十二

大くに散を[illegible]花の
花の石や月のいとさうる
花さうう散るを[illegible]
とる日の[illegible]二度れを
磯山の
[illegible]花の中
花の[illegible]花の[illegible]士
[illegible]
[illegible]
[illegible]

祇の園をひけば花は浮世哉　春夫

門よりまぶ花をつまるまぶ哉、

世は中はさみだれ雨は法、

くらくらと乱るるうそ花の流、

見つるぶ花は吹るる浦は去、

櫻

我親は朝くさくさは本朝は士魂

曙や人はさくらを本は間、

月さくらめ喜山さくらは嘆はけり、

折折る花を梨はさくられ、

さくらさくを梨る落城は山櫻　月居

我さくらるる落城は小家　蒼虬

松山は山里は面はさくる、

山里は面はしるしるを山さくら、

山さくらは櫻はしるを山は者、

春日は櫻はしるを散さくら　定雄

散はさくら我餐は山はつくは、

小豆も春さくらは櫻散　蒼虬

散さくは我、庭櫻はつくる、

行はるを我をとるはさく散　櫻　升六

一日は山寺さくらと人いひし、
面白きるいかるる物なれば桜寺詣
本堂のことを一日精進少さくら、
行脚はいかうつくしう桜うれ、
咲はくらう頃上野もくらけるる、
大寺や佛黄さくらも花の中、
青葉の間より三夜さたたる散桜、
朝つゆはうさ稼けるさくらぶ、
牛くるや骨折足ゆる山さくら 杉坐
四月はくらるて散さくらぶ、

学もなくも佛はさるも散桜、
桜うるわれはさうんは細長花 乙二
散ぬるくらふはは散さくらぶ、
凡縄のようつくるる散さくらぶ、
世をさくらかくさくらは山遠 士改
捨くるる世は青柳くる山さくら、
古紀ものをたつ四山ゆり山さくら、
沙さくと桜ゆくくる夜疲ぶ 遠長

遊桜

花二木中はるる行く生桜 奇河

桃

さくらの花はうゑやまさくら　桜坐
まいはくるつくる花はまうゑ　、
まさくらもころ、初花つくれり　月居
まさくらは見さへ波東くられ　、
山海しまゆめうゑまさくら　、

つくもも花はつゑ祖父桃　蓼軒
南風　南くはは桃はうゑ　定来
わくはは花蘆汁をへ　道麦
海かもはは家中はは花　、

夕うゑ桃ゑてくれ　升六
窓はは　はうゑ　、
嬢はる家　はは花　、
桃はくれ節白　、
鶯はは　、
向桃はさくれ　桃は花　奇洞
江はは面はは桃　、
ち波はは薬所　ち二
走翻　鄰路　桃坐
走翻はくけ　月居

雲つゝし　小松はなを折るはなり　道長
花はなきく　樹も紫木はつゝし　寄国

藤

咲うけく幸自はなさくや松はなを、
ふちはな花は角はつるはなるはなる、
さくうちも多くひろがく藤はな花、
藤はなもつゝはなもつゝはなも藤はな花、
海ゆくしるつゝはしを藤はな花　月居
大宮も藤はなる人はなくさ　定基
西はな藤　まつのつれなる鳥　基良

鳥はなひとやうつゝはなを藤はな花、
牛はな尾も風うゝ松はな花、
うこけ彩はなるや藤はなれ、
りはいはなる人はなる藤はな、
於ゆも地くさひゝ本陸ちち　道長
山ちはや藤はな下摩はなる、

山吹

山吹や高はなるはなるはなる、
山吹や咲はるはなを藤はな、
山吹や藤はなへくはなるはり、

家さとる山路やちるや 桶の水 蒼虬
山路や竹を年貢の一束 〃 樗亜
山路より ひとりあるる菜の畑 〃
山路やさくらちりはの花もちる 雪夜
山路より むらくさの花の ひら 〃
山路はくいと刈られる花の ひら 齊閑
山路やつゆ濡れて花の 〃 〃
山路はの新あるし朝の 〃 〃
山路はしつれ花よる乗 蒼虬

木瓜花　茅花

小坂立はきて人かくれや木瓜つぼ　道竟
清水ながれいくもつれ雲に茅花　月居

茅

ゆくとまるとまるは茅ハ ひとり花　道竟
うくとまるは又ちり本梁の茅　〃
とろの日ろ日ろ茅ハ雀の雀　南岡
指ぬの指ぬ咲ぬ茅ハ　〃
蛍ながれ蛍ながれ指ハ咲すれ　〃
ちりくと雀ハふくと咲茅　〃

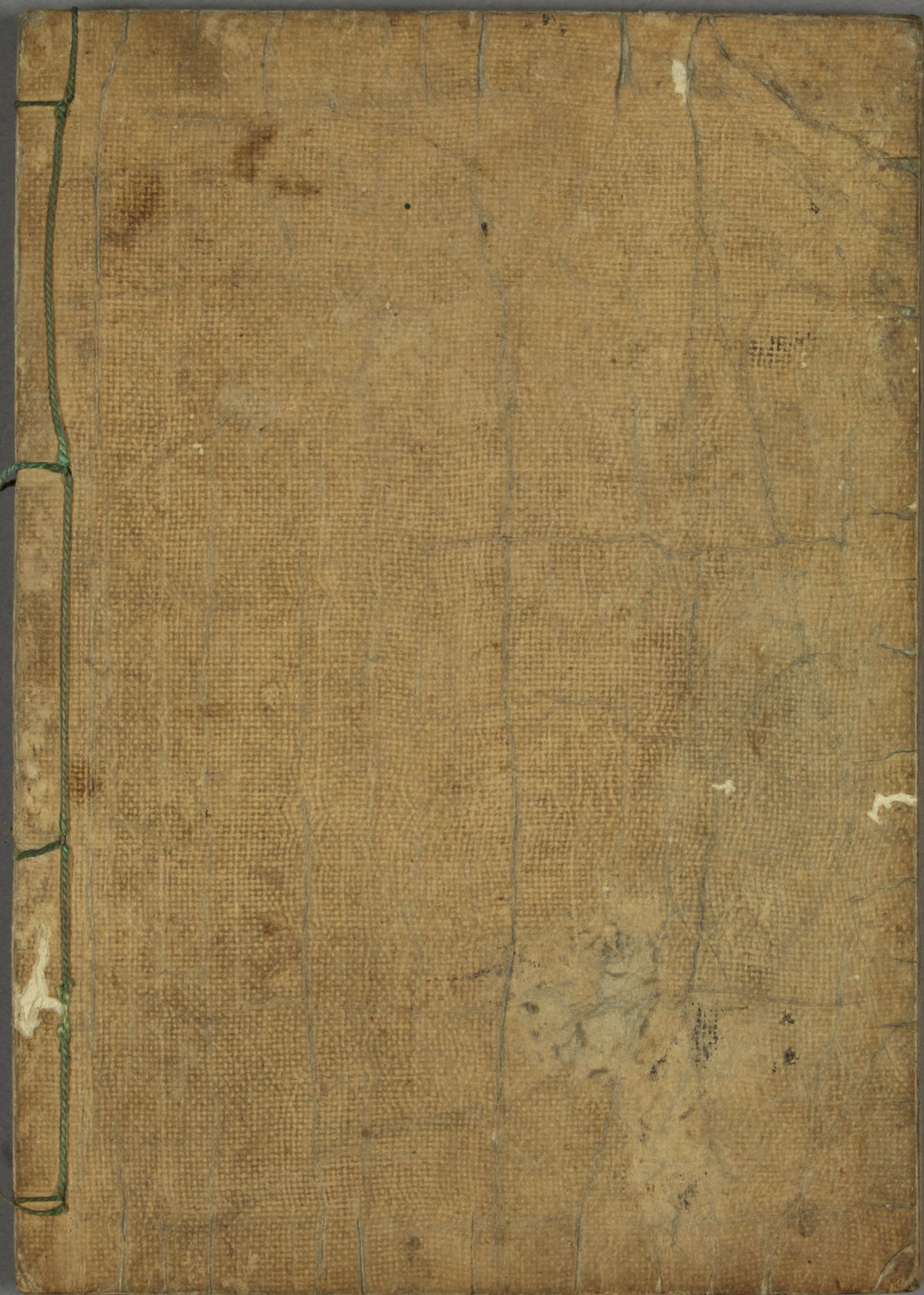
櫻妙法蓮華つもりて紀ノ二
花とぞ見る何所にか来てぞちるらん　椿堂
古今妙法蓮華つもりて咲てよう寺法花　月居
寺細き　蓮華かくる　二日　月
蓮華かくるくもりかくるくもりかくるくもりか

地[illegible]誰[illegible]　通義
松枝[illegible]　月居
[illegible]　桂堂

行書

[illegible]　奇岡
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　奇岡
[illegible]　奇岡

一八四九

三月盡

[illegible]、
[illegible]
[illegible]　升六
[illegible]　士昭